

南幌町長 大 崎 貞 二 様

南幌町監査委員 白 倉 敏 美
南幌町監査委員 加 藤 真 悟

令和7年度南幌町病院事業会計決算審査意見書

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項の規定により、審査に付された令和7年度南幌町病院事業会計決算書について意見を次のとおり提出します。

記

1 審査の対象

令和7年度南幌町病院事業会計決算の事業報告書、事業決算書、財務諸表並びに決算書作成の基礎とする関係書類及び証拠書類などを対象にした。

- (1) 令和7年度南幌町病院事業決算報告書
- (2) 令和7年度南幌町病院事業損益計算書
- (3) 令和7年度南幌町病院事業貸借対照表
- (4) 令和7年度南幌町病院事業剰余金計算書
- (5) 令和7年度南幌町病院事業欠損金処理計算書
- (6) その他附属書類

2 審査の期間及び場所

- (1) 令和8年8月3日（1日間）
- (2) 町立南幌病院3階会議室

3 審査の方法及び範囲

決算の審査にあたっては、南幌町監査基準に基づき、町長から審査に付された令和7年度南幌町病院事業決算報告書等が関係法令に定める様式を基準として調製がされているか審査を行った。

審査の方法は、関係所管課等に決算に係る資料等の提出を求め、決算諸表の計数と会計帳票等の照合・検査のほか、関係所管課等への決算概況の聴取等の審査手続きにより、予算執行が適正かつ効率的に実施されているかを主眼に、予算執行状況の年度間比較などを実施した。

また、証書類の検証、現金・預金の残高の確認等については、地方自治法第199条及び第235条の2の規定に基づき、定例監査及び例月出納検査において実施したので、その結果を踏まえて審査した。

なお、審査の内容は千円単位の四捨五入のため内訳と合計が一致しない場合がある。

4 審査の内容

(1) 業務の概要について

【表 1 患者数の動向】

(単位：人)

項 目		令和 7 年度					令和 6 年度	
		予 算	実 績	達成率	前年度比		実 績	前年度比
					増減数	増減率		増減数
入 院		15,330	11,081	72.3%	△ 1,029	△8.5%	12,110	△ 1,340
外 来	内 科	13,310	13,811	103.8%	191	1.4%	13,620	507
	小児科	1,694	1,623	95.8%	251	18.3%	1,372	△294
	眼 科	1,175	923	78.6%	△ 165	△15.2%	1,088	16
	小 計	16,179	16,357	101.1%	277	1.7%	16,080	229
合 計		31,509	27,438	87.1%	△ 752	△2.7%	28,190	△ 1,111
内科患者数		28,640	24,892	86.9%	△ 838	△3.3%	25,730	△ 833

※入院患者は全て内科の患者

①入院・外来患者数

延患者数は、入院患者が 11,081 人と予算 15,330 人を 4,249 人下回り、達成率 72.3%、前年度比△1,029 人、8.5%の減少となった。

外来患者は、16,357 人と予算 16,179 人を 178 人上回り、達成率 101.1%、前年度比では 277 人、1.7%の増加となった。

外来患者に含まれる訪問診療件数は延べ 720 件と前年度の 660 件に比べ 60 件、9.1%増加した。医療連携による受診、転院、検査を含めた紹介件数は 202 件と前年度の 137 件に比べ 65 件、47.4%の増加、転院依頼は 52 件、前年度の 73 件に比べ△21 件、28.8%減少した。

入院・外来患者数の合計は 27,438 人と予算延患者数 31,509 人に対し 4,071 人下回り、達成率 87.1%となった。

②診療科別延患者数

診療科別に延患者数を見ると、入院、外来を合わせて内科は 24,892 人と予算比△3,748 人、達成率 86.9%、前年度比△838 人、3.3%減少した。

小児科は 1,623 人となり、前年度比 251 人、18.3%増加した。眼科は 923 人、前年度比△165 人、15.2%減少した。

③医業利益（医業収支）の状況と医業収支比率

【表 2 医業収支の推移】

（単位：千円）

年度 項目	令和 7 年度		令和 6 年度		令和 5 年度	
	収支差	前年増減	収支差	前年増減	収支差	前年増減
医 業 収 支	△298, 141	赤字増加	△201, 703	赤字増加	△146, 751	赤字増加
		△96, 438		△54, 952		△20, 361
医業収支比率	61. 8%	△10. 2	72. 0%	△6. 8%	78. 8%	△2. 9 %

本年度の医業収支は△298, 141 千円と前年比では赤字幅が 96, 438 千円増加した。

医業収益を医業費用で除した医業収支比率は、61. 8%と 10. 2%低下した。医業収支比率は、医業に投下した費用を医業収益で収入した割合を示している。

医業費用は 779, 586 千円と前年度比 58, 351 千円、8. 1%増加し、医業収益が 481, 445 千円と、前年度比△38, 087 千円、7. 3%減少したことから、医業収支比率の低下につながった。

④年度別病床利用率の推移

【表 3 年度別病床利用率の推移】

（単位：％、床）

区 分	令和 7 年度		令和 6 年度		令和 5 年度	
	実績	前年度比	実績	前年度比	実績	前年度比
利 用 率	50. 6	△4. 7	55. 3	△5. 9	61. 2	△5. 6
延病床数	21, 900		21, 900		21, 960	

町立南幌病院は令和 2 年 8 月に、一般病棟 26 床、療養病棟 54 床の合計 80 床から、一般病棟のみ 60 床へ病床数の削減と同年 10 月に病棟機能転換を行ったが、一般病床の利用率は、本年度 50. 6%と前年度の 55. 3%を下回っている。

病床利用率は医業収益の増減と経営収支に大きく影響し、町立南幌病院の収益確保に重要なことから、地域医療連携室を中心に関係機関との医療連携強化を行うことで病床利用率を上げることや適正な病床数のあり方を検討することが重要である。

⑤診療単価について

本年度の一人 1 日当たりの診療報酬は入院で 24, 262 円と前年度比△1, 517 円、5. 9%の減少、外来で 8, 068 円と前年度比 222 円、2. 8%増加した。入院単価の減少は地域包括ケア病棟入院管理料の上限である 60 日を超えて入院する患者が比較的多かったことによるものである。

(2) 収益的収支について

【表4 比較収支計算書】

(単位：千円)

科 目		令和7年度					令和6年度
		予算現額	決算額	達成率	増減額	増減率	実 績
医業収益	入院収益	383,250	267,667	69.8%	△38,082	△12.5%	305,749
	外来収益	125,298	132,086	105.4%	366	0.3%	131,720
	その他医業収益	81,312	81,692	100.5%	△371	△0.5%	82,063
	合 計	589,860	481,445	81.6%	△38,087	△7.3%	519,532
医業費用	給 与 費	508,488	488,980	96.2%	52,499	12.0%	436,481
	材 料 費	52,025	50,152	96.4%	17	0.0%	50,135
	経 費	196,604	185,430	94.3%	6,304	3.5%	179,126
	減価償却費	53,595	53,569	100.0%	△941	△1.7%	54,510
	資産減耗費	1,700	624	36.7%	222	55.2%	402
	研究研修費	1,300	831	63.9%	250	43.0%	581
	合 計	813,712	779,586	95.8%	58,351	8.1%	721,235
医 業 利 益		△223,852	△298,141	133.2%	△96,438	47.8%	△201,703
医業外収益	受取利息及び配当金	1	874	87,400.0%	629	256.7%	245
	患者外給食収益	1,150	1,257	109.3%	199	18.8%	1,058
	他会計負担金	106	106	100.0%	56	112.0%	50
	他会計繰入金	177,790	177,790	100.0%	△14,660	△7.6%	192,450
	その他医業外収益	11,768	13,963	118.7%	3,696	36.0%	10,267
	長期前受金戻入	18,695	18,696	100.0%	△1,221	△6.1%	19,917
	補 助 金	16,869	16,869	100.0%	14,839	731.0%	2,030
	合 計	226,379	229,555	101.4%	3,538	1.6%	226,017
医業外費用	支払利息及び企業債取扱諸費	187	186	99.5%	103	124.1%	83
	患者外給食費用	1,140	1,122	98.4%	61	5.7%	1,061
	雑 損 失	2,200	2,036	92.5%	162	8.6%	1,874
	合 計	3,527	3,344	94.8%	326	10.8%	3,018
経 常 利 益		△1,000	△71,930	—	△93,226	—	21,296
特 別 利 益		0	0	—	0	—	0
特 別 損 失		1	0	—	0	—	0
予 備 費		100	0	—	0	—	0
当年度純利益		△ 1,101	△ 71,930	—	△ 93,226	—	21,296

医業収益は481,445千円と予算現額589,860千円に対し△108,415千円、達成率81.6%、前年度比△38,087千円、7.3%の減収、うち入院収益は267,667千円と予算現額383,250千円に対し△115,583千円、達成率69.8%、前年度比△38,082千円、12.5%減収した。

外来収益は、132,086千円と予算現額125,298千円に対し6,788千円、達成率105.4%、前年度比366千円、0.3%増収し、医業収益の大部分を占める入院・外来収益は、399,753千円と予算現額508,548千円に対し△108,795千円、達成率78.6%、前年度実績437,469千円に比べ△37,716千円、8.6%の減収となった。

その他医業収益は81,692千円と予算現額81,312千円に対し380千円、達成率100.5%、前年度比△371千円、0.5%減少した。

医業費用合計779,586千円は予算現額813,712千円に対し△34,126千円、達成率95.8%、前年度比58,351千円、8.1%増加している。

給与費は488,980千円と達成率96.2%、前年度比52,499千円、12.0%増加した。人事院勧告による給与改定によるものである。

材料費は50,152千円と達成率96.4%、前年度比17千円増加した。

経費は185,430千円と達成率94.3%、前年度比6,304千円、3.5%増加した。物価や人件費が高騰した影響による光熱水費、手数料、賃借料、委託料の増加によるものである。

この結果、医業利益は予算現額△223,852千円に対し決算額△298,141千円と予算比△74,289千円、前年度の△201,703千円に比べ△96,438千円、47.8%低下している。

医業外収益229,555千円は予算現額226,379千円に対し3,176千円、達成率101.4%、前年度比3,538千円、1.6%増加した。うち他会計繰入金177,790千円の内訳は、普通交付税（病床分）37,545千円、特別交付税等83,077千円（不採算地区70,612千円、医師派遣分1,050千円、基礎年金拠出分10,915千円、経営強化プラン500千円）に加え、児童手当3,910千円、リハビリテーション医療に要する経費9,710千円、医師確保対策28,548千円、資金不足に伴う一般会計繰入金15,000千円である。長期前受金戻入18,696千円は、過去に一般会計等から受入れた補助金を収益に振り替え、減価償却費の財源となっているもので、前年度比△1,221千円、6.1%減少した。補助金は、病院物価支援事業補助金や国保直診施設特別調整交付金16,869千円を一般会計経由で受入れ、前年度比14,839千円、731.0%増加した。

医業外費用3,344千円は予算現額に対し326千円、達成率94.8%、起債償還利子や消費税の影響により前年度比326千円、10.8%増加した。

以上の結果、年度純利益は△71,930千円、前年度の21,296千円と93,226千円の減少となり、令和元年度以来の赤字決算となった。

(3) 資本的収支について

【表5 資本的収支の明細】

(単位：千円)

区 分		令和 7 年度			令和 6 年度	令和 5 年度
		決 算 額	前年度対比			
			増減額	増減率		
収 入	出 資 金	27,582	862	3.2%	26,720	27,317
	繰 入 金	4,125	4,125	皆増	0	3,000
	企 業 債	26,800	15,100	129.1%	11,700	11,200
	補 助 金	0	0	0.0%	0	0
	収 入 合 計	58,507	20,087	52.3%	38,420	41,517
支 出	建 設 改 良 費	33,144	21,349	181.0%	11,795	14,332
	企業債償還金	41,215	1,136	2.8%	40,079	40,974
	支 出 合 計	74,359	22,485	43.3%	51,874	55,306
収支差		△ 15,852	△ 2,398	17.8%	△ 13,454	△ 13,789

資本的支出のうち、建設改良費では、機械及び備品購入費として内視鏡システム10,505千円、内視鏡洗浄機2,288千円、調剤部門システム9,878千円、シリンジポンプ482千円、常温配膳車404千円、内視鏡トレーニングモデル693千円、工事請負費として酸素マニホールド改修工事3,624千円、消防用設備改修工事5,270千円を支出し、企業債償還金として41,215千円、合計74,359千円を支出している。

資本的収入は企業債発行26,800千円のほか、医療機器購入補助金として、国民健康保険特別会計からの繰入金4,125千円、一般会計からの企業債償還元金相当額27,582千円を出資金として受入れ、合計58,507千円となった。

この結果、現金の出入りを伴う資本的収支差額は△15,852千円となった。

このほか当年度減価償却費53,569千円など現金支出の伴わない費用に対し損益勘定留保資金を充てている。

(4) 財務について

①資産の部（運用）

【表 6 比較貸借対照表（資産）】

（単位：千円）

区 分		令和 7 年度				令和 6 年度	
		決 算 額	構成比	前 年 度 対 比		決 算 額	構成比
				増減額	増減率		
固定資産	土 地	13,454	1.3%	0	0.0%	13,454	1.2%
	減価償却資産	2,016,524	191.2%	26,048	1.3%	1,990,476	178.8%
	減価償却累計額	△1,552,321	△147.2%	△46,924	3.1%	△1,505,397	△135.2%
	減価償却資産小計	464,203	44.0%	△20,876	△4.3%	485,079	43.6%
	無形固定資産	153	0.0%	0	0.0%	153	0.0%
	固定資産計	477,810	45.3%	△20,876	△4.2%	498,686	44.8%
流動資産	現金・預金	485,870	46.1%	△51,640	△9.6%	537,510	48.2%
	未 収 金	88,069	8.3%	12,669	16.8%	75,400	6.8%
	貯 蔵 品	3,061	0.3%	900	41.6%	2,161	0.2%
	流動資産計	577,000	54.7%	△38,071	△6.2%	615,071	55.2%
資 産 合 計		1,054,810	100.0%	△58,947	△5.3%	1,113,757	100.0%

本年度病院事業会計の財務規模は 1,054,810 千円と前年度比△58,947 千円、5.3%減少している。

資産勘定では、固定資産の正味残高は 477,810 千円と前年度比△20,876 千円、4.2%減少した。

流動資産の△38,071 千円、6.2%の減少は、現金・預金が前年度比△51,640 千円、9.6%減少したためである。

②有形固定資産の状況

【表 7 有形固定資産の明細】

(単位：千円)

区 分	前年度末 残高	令和 7 年度				
		増加	減少	年度末 現在高	減価償却 累計額	年度末償 却未済高
土 地	13,454	0	0	13,454	0	13,454
建 物	1,610,412	8,895	0	1,619,307	1,231,244	388,063
構 築 物	66,940	0	0	66,940	63,593	3,347
器械・備品	310,532	24,249	7,095	327,686	255,548	72,138
車 両	2,591	0	0	2,591	1,936	655
合 計	2,003,929	33,144	7,095	2,029,978	1,552,321	477,657

本年度末の有形固定資産残高は土地を含め 2,029,978 千円と前年度比 26,049 千円増加している。減価償却累計額 1,552,321 千円は前年度比 46,925 千円の増加であり、年度末の減価償却資産に対する償却率は 76.5%となっている。

③負債・資本の部（調達）

【表 8 比較貸借対照表（調達）】

(単位：千円)

区 分			令和 7 年度末				令和 6 年度末	
			決算額	構成比	前年度対比		決算額	構成比
					増減額	増減率		
負債の部		企 業 債	66,756	6.3%	△10,906	△14.0%	77,662	7.0%
		固定負債合計	66,756	6.3%	△10,906	△14.0%	77,662	7.0%
	流動負債	企 業 債	37,864	3.6%	△ 3,509	△8.5%	41,373	3.7%
		未 払 金	44,356	4.2%	7,784	21.3%	36,572	3.3%
		諸 引 当 金	35,071	3.3%	5,213	17.5%	29,858	2.7%
		その他流動負債	4,500	0.4%	1,390	44.7%	3,110	0.3%
		流 動 負 債 計	121,791	11.5%	10,878	9.8%	110,913	10.0%
	繰延収益	長 期 前 受 金	618,790	58.7%	3,169	0.5%	615,621	55.3%
		長期前受金収益化累計額	△496,766	△47.1%	△17,740	3.7%	△479,026	△43.0%
		繰 延 収 益 計	122,024	11.6%	△14,571	△10.7%	136,595	12.3%
	負 債 合 計		310,571	29.4%	△14,599	△4.5%	325,170	29.2%

資本の部	資本金	固有資本金	35,033	3.3%	0	0.0%	35,033	3.1%
		再評価組入資本金	1,885	0.2%	0	0.0%	1,885	0.2%
		繰入資本金	1,178,867	111.8%	27,582	2.4%	1,151,285	103.4%
		組入資本金	90,601	8.6%	0	0.0%	90,601	8.1%
		資本金計	1,306,386	123.9%	27,582	2.2%	1,278,804	114.8%
	剰余金	繰越利益剰余金	△490,218	△46.5%	21,295	△4.2%	△511,513	△45.9%
		当年度純利益	△71,929	△6.8%	△93,225	—	21,296	1.9%
		剰余金計	△562,147	△53.3%	△71,930	△14.7%	△490,217	△44.0%
	資本合計		744,239	70.6%	△44,348	△5.6%	788,587	70.8%
	負債・資本の部合計		1,054,810	100.0%	△58,947	△5.3%	1,113,757	100.0%

負債勘定では、固定負債で新規に病院整備事業債 26,800 千円を発行したが、翌年度償還分 37,864 千円を流動負債の部に振り替えたため、11,064 千円減少した。

病院整備事業債は、前年度末残高 119,035 千円（固定負債 77,662 千円、流動負債 41,373 千円）に対して 26,800 千円を発行し 41,215 千円を償還したことから、本年度末残高は 104,620 千円（固定負債 66,756 千円、流動負債 37,864 千円）となった。

流動負債は、負債について決算日の翌日から起算して 1 年以内支払分を流動負債、1 年超支払分を固定負債に区分する 1 年会計基準により、令和 8 年度の償還予定額 37,864 千円を固定負債から振り替え、企業債残高が 37,864 千円と 3,509 千円の減少、未払金が 44,356 千円と 7,784 千円の増加、職員手当に係る賞与引当金及び法定福利費引当金が 35,071 千円と 5,213 千円増加したことなどから 121,791 千円と前年度比 10,878 千円、9.8%増加した。

繰延収益は固定資産取得に伴い、過去に受入れた一般会計等からの補助金 18,696 千円を長期前受金戻入に計上し減価償却費の財源に充て、新たに 4,125 千円の補助金を受け 122,024 千円と前年度比△14,571 千円、10.7%減少した。

資本の部では繰入資本金が 1,178,867 千円と一般会計から 27,582 千円の繰入れにより増加したほかに異動はなく、当年度純利益が△71,929 千円となったことから当年度未処分利益剰余金（累積欠損金）は△562,147 千円となり資本合計は 744,239 千円となった。

5 審査意見

(1) 令和7年度の概況について

令和7年度は、「国民健康保険町立南幌病院経営強化プラン」に基づき、新たに常勤医師1名が採用され医師4名体制を確保するとともに、経営の効率化を推進し、持続可能な地域医療提供体制の確保に向けた取組が進められている。総合診療科の医師が4名になったことで、乳幼児から高齢者までの診療が行われており、町民の健康に関する様々な相談に応じ、各種健康診断や予防接種の実施、救急機能の維持などを通じて町民の健康管理に努めている。また、キャッシュレス決済やワクチン接種のWEB予約を導入し、利便性の向上が図られている。

令和7年度は持続可能な地域医療の実現に向けて、適正経営コンサルティング業務が実施され、町立南幌病院が将来にわたり地域医療を持続的に提供していくための具体的な事業規模及び方向性が示された。

令和7年度病院事業会計決算では、入院・外来患者数において、予算における見込み人数は入院で15,330人、外来で16,179人であったが、決算では入院11,081人、達成率72.3%、外来16,357人、達成率101.1%となった。予算対比で入院患者数が少なかった理由として、国では今後需要が高まると予想される在宅医療への対応を強化するため入院に限らない医療体制を整備する方向性となっており、診療報酬も急性期医療を終えた患者が在宅や介護施設への復帰に向けて医療やリハビリテーション、退院支援などに対して手厚い傾向にある。近隣市町でも、地域ケア包括病棟の活用と整備が進んでおり、従前は町立南幌病院へ転院してきた患者がそのまま元の病院の地域包括ケア病棟に転床していることが影響しているものと推察され、病床利用率が本年度は50.6%、前年度対比で4.7%減少していることも同様の理由である。

医業収支の状況と医業収支比率は、昨年度より赤字が96,438千円増加しており、医業収支比率も10.3%減少した。この理由については、収益面では、入院患者の減少による入院収益の減少が大きく、費用面では、人事院勧告による人件費の増加や、本来であれば、入院患者の減少に比例して減少する材料費等の経費が、物価高騰により横ばいもしくは増加していることによるものである。

今後は、地域への情報発信によりイメージアップとPRを図ることが重要であり、収益面では、入院患者数の減少による病床利用率の低下が大きく影響し、病院経営はより一層厳しい状況が続くものと推察される。

病床利用率の改善が町立南幌病院の安定的・持続的な経営につながるものとする。

(2) 審査意見の総括

令和7年度南幌町病院事業会計の決算報告書及び事業決算書並びに付属書類は関係諸帳表により検証した結果、それぞれ関係法令に基づいて作成され、その計数は適正に表示していると認められる。

今後、町立南幌病院がどのような役割を担っていくのかを鑑み、町民が安心して暮らせ

るよう、身近なかかりつけ医としての機能を基本とする安定的な病院経営が続くことを期待し、審査意見とする。